からだとこころをしなやかに　気軽にチャレンジ！　YOGA

健康なからだづくりのために今日から始めよう！

背筋を鍛え、美しい上半身を作る

橋のポーズ

背中・胸・腰をストレッチすることで姿勢の矯正に有効なポーズです。
心身をリラックスさせ、自律神経を整える効果もあります。

効果：肩こり・腰痛・猫背の改善　バストアップ　肩・背中の強化
肺・甲状腺の活性化　お尻・太ももの引き締めなど

事前に用意するもの

◆ヨガマット
ない場合は厚手のバスタオルなどで代用できますが、転倒など十分ご注意ください。

◆運動できる服装
からだを締め付けず、動きやすいものを用意しましょう。

ヨーガを行う際の注意

◆無理をせず、自分のペースで行いましょう
◆動作は勢いをつけず、ゆっくりと行いましょう
◆呼吸と動作を合わせて行いましょう
◆ヨガの前後２時間は食事を控えましょう
◆ヨガの前後30分は入浴を避けましょう

♥Point　首や背中に問題がある人は、無理に行わないでください。

1 仰向けに寝て、足は腰幅に開き、腕は両脇にのばしておく。

2 足は腰幅のまま両ひざを立て、かかとはできるだけお尻に近づける。腕はまっすぐ伸ばし手のひらを下に向けて床につける。

3 一度息を止め、息を吸うタイミングでゆっくりと腰を持ち上げていく。足の裏で床を押し付け、お腹と胸をあごへと近づける。

4 肩甲骨を引き寄せて両手を腰の下で組む。腕全体で床を押し、さらに骨盤を引き上げ、胸を開く。あごを引いて首筋を伸ばし、このまま数呼吸間キープする。

■人間ドックのご案内

当法人会では会員企業向けに健康診断費用の一部助成が受けられる福利厚生事業を行っています。補助金は１名につき5,000円（年間一社３名まで）です。

受診の申し込みは、申込書（法人会ホームページ→福利厚生）に必要事項を記入してFAXで送信ください。
http：//www.meinaka-hojinkai.or.jp　FAX 052-242-9429

ものづくり愛知の至宝
松坂屋コレクション ⑤

段模様腰明振袖（だんもようこしあけふりそで）

［解　説］
段模様腰明振袖
江戸後期／練緯

武家男児が着用した熨斗目（のしめ）の振袖です。

熨斗目とは、経（たて）に生糸、緯（よこ）に練糸（ねりいと）を用いて平織にした絹織物を指し、この織物で仕立てた小袖を熨斗目小袖といい、略して熨斗目と呼びました。

江戸時代の武家男性の礼装には、必ず熨斗目小袖が着用されました。その意匠は腰明（こしあけ）と言い、腰の部分だけを色違いとし、そこに格子や段や絣（かすり）などの模様を織り出しています。写真の振袖は中裁（ちゅうだち）の仕立てで、平戸の松浦家の定紋である三つ星を織り出しています。

次回の新春号は、「花車模様打掛」です。

約一万点に及ぶ「松坂屋コレクション」は、呉服デザインのために収集された経緯から、松坂屋では最近までほぼ社外秘の扱いとなっていましたが、平成20年（2008）に開催した「小袖　江戸のオートクチュール」をきっかけに一般公開されました。

J.フロント リテイリング史料館は、染織参考館の閉鎖で京都から名古屋に移管されたのを機に、その一部を名古屋市博物館と共同でコレクションの調査・研究を進め、日本の染織文化の発展に貢献することを理念に設立しました。

松坂屋美術館に隣接する松坂屋史料室では、①呉服デザイン・意匠・史料　②大丸松坂屋百貨店の創業・歴史に関係する史料など、テーマを設定した展示を開催しています。

季節を楽しむ和菓子の魅力

初時雨 そば上用　280円（税別）

鶉餅 ういろ　280円（税別）

昔話 栗金団　280円（税別）

錦秋 きんとん　280円（税別）

勝り草 ういろ　280円（税別）

御菓子司　川村屋
名古屋市中区新栄二丁目18-1
Phone／052-262-0481
営業時間／午前９時00分～午後６時30分
定休日／日・祝

段模様腰明振袖
提供／一般財団法人　J.フロント リテイリング史料館

松坂屋史料室展示の案内

第22回企画展「「染織名作展」と松坂屋コレクション」
会期／開催中～平成27年11月24日㈫　休館日：10月20日㈫
第23回企画展「松坂屋の年賀」
会期／平成27年11月28日㈯～平成28年２月23日㈫

会員各位へ

会員増強運動へのご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます

平素は、当会の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当会では会員各位のご理解、ご協力を賜りつつ、鋭意会員増強運動に取り組んでおります。

しかしながら、昨年度は年度末の会員数が対前年度比143社減の2,997社で、加入率32.3％となりました。

改めて申し上げるまでもなく、当会が公益社団法人として中区の企業・地域社会のさらなる発展に貢献してまいりますためには、法人会活動のバロメーターである会員数の維持・拡大による組織強化が不可欠になっております。

事務局では、本年度も引き続き新入会員の確保や退会防止に努め会員数の増加を目指して会員増強運動に取り組んでおります。

つきましては、会員各位には引き続き会員増強運動の実施に格別のご理解を賜り、会員勧誘の候補先をご紹介いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

公益社団法人 名古屋中法人会
会長　岡谷 篤一

《会員勧誘候補先のご連絡について》

会員勧誘候補先に関しましては、下記の用紙を事務局宛の
FAX番号にてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

公益社団法人　名古屋中法人会　事務局
名古屋市中区栄四丁目3-26 昭和ビル3階　FAX 052-242-9429　電話 052-242-9427

法人会は社長の“やる気”をサポートします。

《法人会の事業活動とメリット》

◎税のオピニオンリーダーとしての税制提言活動
◎最新の地域・世界経済などの講演会によって、自社の経営戦略を図る
◎環境や福祉など、地域に密着した社会貢献活動による企業ブランドの向上を目指す
◎さまざまな異業種の経営者と出会い、ビジネスチャンスにつながる交流会
◎法人会独自のお得な各種の福利厚生制度で、自社の企業リスクをカバーする
◎税知識が身につく研修会や子どもたちへの租税教育活動

これらのほかに、法人会は様々な活動で企業を支援し、国と地域の発展に努めています。
ぜひ、みなさんの仲間を誘って、税の知識を活かし、一歩先の経営を目指しましょう！

会員増強推進運動実施中!!

みんなで成功させよう！　会員増強運動

会員勧誘候補先　通知書

貴社・団体名	
ご担当者	役職名　　お名前 勧誘候補先について、お問い合わせさせていただくことがございますのでご記入ください。
ご連絡先	電話　　FAX

ご紹介いただける勧誘候補先

会社・団体名	
所在地	中区以外の勧誘候補先も受け付けております。
連絡先窓口	役職名　　お名前
連絡先電話番号	

FAX 052-242-9429

公益社団法人　名古屋中法人会事務局 行

名古屋フィルハーモニー交響楽団

シリーズ
こだわり見学記
67

1966

東海高校での第１回演奏会

1988

名フィル元音楽総監督　小林 研一郎氏

1996

名古屋音楽プラザ

2003

名古屋中法人会社団化30周年記念事業
「名フィル真夏の夜のコンサート」

2012

公益社団法人設立記念事業
「SUMMER CONCERT ～若手音楽家と名フィルを楽しむタベ～」

未来へ、ハーモニー

50th Anniversary
Nagoya Philharmonic Orchestra
since 1966

2016年７月、名古屋フィルハーモニー交響楽団は、
創立50周年を迎えます。

多くの皆さまに支えられて半世紀。
これまでずっと、このまちにハーモニーを響かせてきたことは、
私たちの誇りです。
これからも感謝の想いとともに、人・まち・暮らしの響きあう未来へ、
心を込めてハーモニーを奏でつづけていきます。
♪
2016年７月名フィルは「未来へ、ハーモニー」を合言葉に、創立50周年を迎える。
多くの音楽ファンに支えられ、確かな歩みを続ける名フィルは「世界の名フィル」へと躍進する。

私たちの街のオーケストラ

第１回演奏会曲目は、ベートーヴェンの「運命」

2016年７月、名古屋フィルハーモニー交響楽団（名フィル）は創立50周年を迎える。

「名古屋に自由な立場で少しでも良い音の出せるオーケストラを作りたい。立派なオーケストラがその都市に貢献する文化的な意義は非常に大きい。当オーケストラは以上のような考えに同意した中京地区在住の演奏家たちによって、自然発生的に結成されたものである。

我々は近い将来、このオーケストラを一流にすると同時に学校の音楽教育にも役立つように努力する」－1966年７月 名フィル設立趣意書

お披露目の演奏会は1966年10月に東海高校で開かれ、曲目はベートーヴェンの交響曲「運命」であったが、メンバーが足りず当日大阪公演を終えた東フィルの団員が駆けつけた。

第１回定期演奏会は翌年10月21日に愛知文化講堂で開催される。オールモーツァルトのプログラムに満員の聴衆は、地元にできたオーケストラのデビューに惜しみない拍手を送った。

1973年４月20日、懸案だった名フィルの財団法人化が実現し、任意団体からプロのオーケストラへの道を歩む。　1996年12月には名フィルの本拠地「名古屋市音楽プラザ」が、当時の定期演奏会会場であった名古屋市民会館（現 日本特殊陶業市民会館）の北隣にオープンする。

６階建ての内部には、市民が名フィルの練習風景を見学できる約46席が用意され、市民のための音楽練習室もある。

「名フィル」

名古屋、日本、そして世界の名フィルへ

名フィルと中法人会（名古屋中法人会）は、20年近く友好を重ねてきた。

当会の広報誌創刊100号(1998)では、名フィル音楽総監督・指揮者の小林研一郎氏がインタビューのなかで、「演奏会で最初にタクトを振り下ろす瞬間を、タクトに女神が宿り、オーケストラからくる“裂帛の気魄”を感じ、それを自分のなかで昇華する。まさに神の啓示以外の何物でもない」と語っている。

2003年夏。中法人会社団化30周年記念事業「名フィル真夏の夜のコンサート　～ようこそ新世界へ～指揮者　武藤英明氏」。2012年夏。公益社団化記念コンサート「SUMMER COCERT ～若手音楽家と名フィルを楽しむ夕べ～」（指揮者　角田鋼亮氏）。

そして、2015年秋号（本誌）「シリーズ・この人」は名フィル次期音楽監督の小泉和裕氏を特集している。

市民に音楽の素晴らしさを届け、名古屋の芸術文化の発展に寄与する「名フィル」。そして「中法人会」も地域の健全な経営者たちが集い、互いに研鑽を重ね、豊かな社会を目指している。

創立50周年記念コンサート

●創立50周年プレコンサート〈2016ニューイヤー・スペシャル〉

日　　時：2016年１月８日㈮
会　　場：愛知県芸術劇場コンサートホール

Photo 三浦興一

外山 雄三（指揮）

Photo S.Misuta

小川 典子（ピアノ）

指　揮　者／外山 雄三（1981～87　名フィル音楽総監督）
ソ リ ス ト／小川 典子（ピアノ）
プログラム／外山 雄三：前奏曲
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第５番変ホ長調 作品73『皇帝』
チャイコフスキー：交響曲第５番ホ短調 作品64

●バースデー・コンサート

日　　時：2016年７月９日㈯・10日㈰
会　　場：日本特殊陶業市民会館フォレストホール

『エロイカ』の魅力を名フィルとともに

名古屋フィルハーモニー交響楽団　次期音楽監督

小泉 和裕氏

取材日時／平成27年９月２日㈬　17：30〜19：00　取材場所／名古屋市音楽プラザ　ききて／森田文二・岩田加津子・藤間敏雄・清水正彌

名フィルの潜在能力を引き出す

――音楽監督ご就任おめでとうございます。名フィル・ファンだけでなく、地元の皆様も大喜びです。

以前からお話を頂いていましたが、都合でなかなかお引き受けできませんでした。この度改めて強い要請がありまして、今60代半ば、自分としては、65歳から75歳は、指揮者として最も充実した、いい仕事の出来る時期だと思っていますので、名フィルと一緒にやらせて頂く時だと判断して、快くお引き受けしました。

――2016年に創立50周年を迎える名フィルへの想い、今後の方針などをお聞かせください。

音楽監督というのはオーケストラの演奏水準を高める一番の責任者です。年間120回くらいの演奏会がありますが、その中で僕が指揮できるのは１割くらいです。大事な自主公演である定期演奏会で、オーケストラが実力を出せるということに結び付けたいと思っています。

オーケストラが持っている潜在能力、「自分たちはこんなことが出来たのか」と、楽員に認識して欲しいと思っています。

そのためには、僕がその潜在能力を引き出す力がないとダメです。このオーケストラをもっと高いレベルの音楽へ導くことが、僕の一番の仕事だと思います。

自主公演の年間のプログラムは、事務局と相談しながら決めて行きます。それは音楽監督の最も重要な仕事ですから、客演指揮者のこと、曲のことなど、最終的に僕が全部チェックして発表することにしています。

――私など60代半ばで、リタイアを考えています（笑）。

指揮者の場合は60代がやっと中堅で、自分としては青年期を抜け出した感じで、まだまだこれからだと思っています。

――指揮者の方は、ご長寿だと感じます。

指揮をするとオーケストラの皆が音を出してくれる心地良さ、満足感があるのではないでしょうか。健康であると精神力も持ちます。どちらも大事です。

すぐに諦めたりしない、いい意味での“しつこさ”が必要で、自分としてもそれを勉強しているところです。

カラヤンさんとコンクールに感謝

――後先になりますが、お生まれをお聞きします。

京都市出身です。

―― 子供の頃から音楽への道を、と考えられていましたか。

家は普通の家庭で、音楽をやっていた両親ではありませんでした。

小学校に通い始めた頃から音楽が好きで、ピアノを買ってもらって習い始めました。

オーケストラの音楽を聴くのが大好きで、ステレオでレコードを聴くのが一番の楽しみでした。結果的に地元の堀川高校の音楽科に進み、東京藝大に入ることにしました。

振り返ってみれば、オーケストラの音楽が好きだったことと、中学の頃オーケストラを聴きに行き、実際に指揮者やオーケストラを耳で聴いて目で観て、指揮者に関心を持ったと思います。

高校では、自分たちが作ったオーケストラで指揮をしたり、合唱の教室で、先生のいないときに指揮をしたりして、「なかなか上手だ」と仲間たちに褒められて、そうした小さなきっかけが増幅して、本当に指揮者になりたいと思った

のが高校の３年生の時で、それで藝大指揮科に入りました。
藝大では山田一雄先生に就いて学び、２年の時に民音指揮者コンクールで１位になりました。それで外国に留学という話になって、卒業を待たずにベルリンに行き、そこで新たな勉強が始まりました。
幸運にもカラヤン国際指揮者コンクールで１位になって、ベルリン・フィルとカラヤンさんに学び研鑽することになりました。ベルリンで学んだことは僕の宝物です。

――素晴らしいですね。

僕はコンクールに恵まれました。ヘルベルト・フォン・カラヤンさんが審査して最終的に優勝させてくれたから、結果的にこういう仕事が出来るわけです。コンクールやカラヤンさんには本当に感謝しています。カラヤンさんは人柄も音楽ももちろん尊敬していますが、僕をあらゆる面で導いてもらえたことに、心から感謝しています。

指揮者の“間”と“オーラ”

――クラシックは、同じ譜面なのに指揮者によって違って聴こえます。

指揮者だけでなく人それぞれ個性があって、その人の体の中のリズム、テンポがすべて違います。同じ曲でも指揮者によって違った音楽になるのです。
それだけの影響力があるものを発信していかないと、指揮者の存在する意味はありません。
“間”とかタイミングが違うので、“間”をどのように繋げていくかは、指揮者の役割の大きなファクターです。指揮者はどういう“オーラ”を彼らに発信しているかが大事なことなのです。

難曲『エロイカ』はやりがいのある曲

――定期演奏会（９月４日・５日）に『エロイカ』（英雄――ベートーヴェン交響曲第３番）が久しぶりに名フィルで演奏されます。

シンフォニーは色々ありますが、ベートーヴェン交響曲第３番『エロイカ』は自分にとって一番大切な曲です。長大で構成がしっかりしていて、交響曲第１番、第２番に比べて、第３番はベートーヴェンの言いたいことがはっきり分かる偉大な音楽です。
指揮者にとって絶対に出来なければいけないレパートリーですが、一番の難曲です。
それはオーケストラにとっても同じです。今回リハーサルが３日間あり、皆熱心にやっていますが、とても難しいです。
ベートーヴェンは、皆知っているようで、音楽家たちにとってもそう簡単ではありません。音符だけ見ればそうは難しくないけれど、意味を考えると、ものすごく色々なものが詰まっています。やればやる程、色々なことが出来るようになってくるのです。単純ではありません。
だからこそ「原点に返る」「古典に返る」ということ、「ベートーヴェンをちゃんと出来る」ということは、音楽家やオーケストラの基本なのです。
どういうものがベートーヴェンなのか、交響曲をどのように演奏するのか。日本のオーケストラには、まだベートーヴェンが根付いていません。
だから『エロイカ』を本当の意味で演奏するのはなかなか難しい。色々探りながら、出来るだけ良い演奏にしたいとやっています。僕はベートーヴェンの代表作だと思っています。

右脳を刺激し、心を癒すクラシック音楽

――クラシック音楽は歌謡曲・ポップスなどと違い、遥かに長い歴史があります。理由は何だとお考えですか。

決定的に違うのは、歌モノは語りなので左脳で聴いています。一方、音だけを聴くクラシック音楽は右脳が刺激されます。右脳が活性化し、反対に左脳が休まることで、癒しになり、その人にとって栄養になり、落ち着いたり、気持ちが良くなったりすることがあると思います。

特にモーツァルトの音楽はそうだと思います。心地良さが出ているはずです。演奏会場の客席で寝てもいいのです。心が豊かになったり、癒しになったりするのがクラシック音楽の特徴で、貴重な音楽として長く継続されてオーケストラで演奏されてきたのです。

僕はドイツで勉強しましたけれど、ヨーロッパのお客様の多くは、音楽の良さを分かっている中高年でした。日本でもそうなって欲しいのですが、日本の人たちは忙し過ぎて、生活環境も違うので、なかなかファンが根付きません。いつか日本も、夕方５時に仕事が終わって家に帰り、食後にゆっくり音楽会に行ったり、音楽会が終わってからゆっくり食事して帰ったりとか、そうなるといいですね。

生活スタイルすべてが音楽に影響

――ご趣味や健康法などについて、お聞かせください。

一番大切にしているのは健康です。

そのためには環境を変えてリフレッシュすることが大切で、音楽活動以外でやっていることは、すべて仕事のためでもあります。

中学・高校時代はスポーツも大好きで、学年でいつも一番でした。飛んだり走ったり、マラソンもクラスで１位で、野球部に入っていたこともありました。とにかくスポーツが大好きです。

休日には、佐賀の唐津で面白い海の生活を、飛騨古川では山の生活を楽しんでいます。唐津は妻の実家です。飛騨古川は名古屋から近いですし、夏は涼しいので、平成元年に大きな蚕農家を購入しました。夏はそこで野菜や米を作ったりして楽しんでいます。それも音楽に影響しているかもしれません。

コンサートを終えると自然に浸る、そうした切り替えが僕にとって一番の健康法ですし、趣味といえば趣味です。

――アグレッシブな毎日ですね。

全部繋がって仕事が出来ているのです。生活スタイルがすべて音楽に影響しています。ベートーヴェンのムードを持った生活をしていないと、ベートーヴェンの『エロイカ』は出来ません。

ベルリンに留学して、ヨーロッパ人のそうした生活スタイルを見ていましたので、日本に帰っても変えないようにやっています。生活と仕事が遊びのように思えたら最高です。

―― お好きな言葉はありますか。

特にありません。本を読むのは好きで、心に留めている言葉はいくつもありますが、イメージや気持ちが片寄ってしまわないように、心を自由にしていたいのです。

――『エロイカ』の話題、ヨーロッパの音楽事情は刺激的で、また緊張感も伝わり、楽しくお話をお聞きしました。今日は練習でご多忙のところ、ありがとうございました。

■プロフィール

指揮者 小泉（こいずみ） 和裕（かずひろ）氏

京都生まれ。1969年東京藝大指揮科に入学、山田一雄氏に師事。70年第２回民音指揮者コンクール第１位、73年第３回カラヤン国際指揮者コンクール第１位。その後ベルリン・フィルを指揮してベルリン・デビュー。75年ベルリン・フィル定期演奏会に登場、76年フランス国立放送管を指揮し、ルービンシュタイン、ロストロポーヴィチとも共演、同年ザルツブルク音楽祭でウィーン・フィルを指揮、その後ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響などに客演、ヨーロッパ各地において精力的な指揮活動を行う。またアメリカにおいても、78年ラヴィニア音楽祭でシカゴ響を指揮し大成功を収めた後、80年シカゴ響定期演奏会に登場し注目を集め、ボストン響、デトロイト響、シンシナティ響、トロント響、モントリオール響などにも客演。ロンドンのロイヤル・フィルに定期的に招かれ、数々の名演を残すとともに、チャイコフスキーの交響曲第４・５・６番のCDを完成させる。これまでに新日本フィル音楽監督、カナダ・ウィニペグ響音楽監督、東京都響首席指揮者、九響首席指揮者、大阪センチュリー響（現・日本センチュリー響）首席指揮者、東京都響レジデント・コンダクター、日本センチュリー響音楽監督などを歴任。現在、東京都響終身名誉指揮者、九響音楽監督、仙台フィル首席客演指揮者、神奈川フィル特別客演指揮者。2016年４月から、新たに名フィルの音楽監督に就任することが決まっている。

緩やかな回復基調 ギリシャと中国などの不透明要因

日時／平成27年７月22日㈬ 13:30～15:30　会場／名古屋マリオットアソシアホテル16F　タワーズボールルーム

満席のタワーズボールルームに、日本経済の現状と動向を注視する参加者の真剣さが感じられる。

景気は４～６月期こそ減速しても、企業の設備投資意欲は旺盛で、基調として緩やかな回復が続くとの見方で一致したが、ギリシャや中国など海外景気に不透明要因も多く、日本経済の成長力向上に政策対応を求める発言も出された。

梅森 徹氏

旺盛な投資意欲、少ない名古屋の免税店

◎2015年度の実質経済成長率の見通し　1.7%

雇用と所得は改善し、個人消費も底堅く推移する。企業の設備投資は前年比で５%台まで伸び、東海地方は２割増と好調で、大企業から中小企業まで、外需型から内需企業へと縦横双方向に投資が広がっている。

金融政策は所期の効果を発揮していて、今後も景気動向を注視して２%の物価上昇率の目標に向け量的金融緩和的を継続する。

持続的な成長には、民間の自発的な行動が不可欠だ。

新美 篤志氏

格段の競争力、乏しい高齢者の消費意欲

◎2015年度の実質経済成長率の見通し　1.7%

◎15年末の円相場（対ドル）123円

◎15年末の日経平均株価　２万～２万1000円

東海地方の個人消費は堅調で、企業の投資意欲は強く、トヨタ自動車・三菱重工の好調と工作機械のマザックも力強い。雇用は100%と不足感はなく格段の競争力がある。

懸念材料は全国的な高齢者の消費意欲が乏しいことだ。

主催／日本経済新聞社 ・（公社）日本経済研究センター
後援／公益社団法人名古屋中法人会 他

司会／日本経済新聞社東京本社編集局次長兼経済部長
菅野 幹雄氏

パネリスト／（敬称略）
中部経済同友会代表幹事、ジェイテクト代表取締役会長 新美 篤志氏
日本銀行名古屋支店長 梅森 徹氏
国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所次長 木下 祐子さん
（公社）日本経済研究センター研究顧問 齋藤 潤氏

木下 祐子さん

IMFの年次報告に注目、中国の軟着陸を注視

◎2015年度の実質経済成長率の見通し　0.8%（暦年）

日本経済は、緩やかな回復が続くだろう。

一方、今夕発表するIMFの年次報告を見なければならないが、世界経済は右下がりで、潜在成長率の低下、高齢化による労働力不足、新興国・中国・ロシアの経済力の減速も懸念される。アベノミクスの第３の矢など政府の一層の努力が必要である。

17年度に消費税を引き上げ、20年度に基礎的財政収支の黒字化目標を達成するべきだが、成長による税収増に頼った財政健全化はリスクも大きい。

欧米では中期的な予算の枠組みを設けて財政規律を強化する取り組み例がある。

ギリシャ問題はユーロ圏全体的には影響がなく、根源的には救えないと覚悟している。

齋藤 潤氏

高齢化と人口減、外国人労働者の活用

◎2015年度の実質経済成長率の見通し　1.5%

◎15年末の円相場（対ドル）120～125円

◎15年末の日経平均株価　２万～２万1000円

高齢者の消費の下押し要因は、今年度からの年金支給額の伸びを抑えるマクロ経済スライドが始まったことにある。他方、公共事業は一回りして国内総生産（GDP）も弱い。

「回復基調にある」とする画一的なエコノミストの判断には疑問がある。

必要な政策は、日銀が掲げた物価上昇率「２年で２%」を果たしていないことから、場合によっては追加の金融緩和も必要だ。長期的な人口減少を解決するには、難問だが外国人労働者の活用が避けられない。